主要地方道岐阜環状線鵜飼い大橋建設工事

受賞機関　岐阜県岐阜建設事務所

はじめに

鵜飼い大橋は、岐阜市中心部の交通渋滞緩和と良好な市街地形成のため、都市計画道路環状線の最終供用区間で長良川を横断する橋梁である。

架橋位置は、清流長良川、金華山など豊かな自然環境の中にあり、1300年有余年もの歴史を誇る伝統行事・鵜飼いの開催流域である。また、河川敷は市民のビーチともいうべき貴重な水辺のレクリエーション空間となっている。

橋梁形式は主塔を「鵜匠」、ケーブルを「手縄」にみたてた斜張橋とし、景観、環境、鵜飼へ配慮したデザインとした。

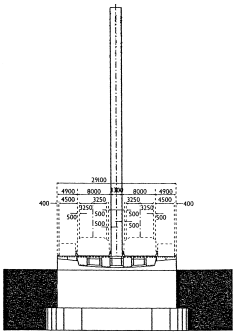
事業の概要

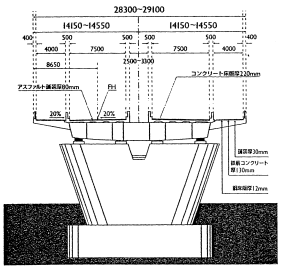
橋　　長：469m
幅　　員：28.3～29.1m
形　　式：鋼単径間斜長橋（154m）＋鋼６径間連続非合成箱桁橋（315m）
主塔の高さ：60m（傾き15度）
工 事 期 間：平成８年９月～平成15年３月
事　業　費：約102億円

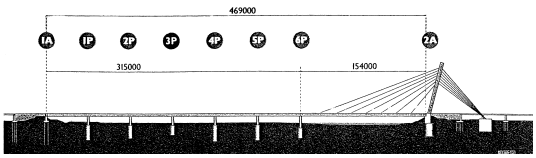
事業の特徴

⑴ 斜長橋の採用

長良川で行われる鵜飼のクライマックスである「狩り下り」に支障をきたさないよう配慮するとともに、将来的な河川改修計画を踏まえて支間長を決める必要があった。この前提条件を考慮し、景観設計上の要件から斜張橋を選定した。


主塔部横断図


横断図


平面図

鵜飼い大橋上空から主塔を望む

鵜飼い大橋左岸側から主塔を望む

⑵ 主塔の傾き

架橋位置付近の景観特性は、右岸が河原、河川敷樹林といった水平性の強い要素、左岸が金華山舟伏山といった垂直性の強い要素で構成され、非対象な風景となっている。橋梁形式はこの非対称な風景とのなじみを考慮して、視覚的重心を左岸側に置いてバランスをとるように工夫した。

視覚上のポイントとなる主塔は、青空の中に屹立させるのではなく、背後の金華山と対比させるように左岸に配置し、主塔に傾斜を与えることで、背後の山々に抱かれるような形となっている。

⑶ ケーブルのひねり

ケーブルは、平面的に交差させる（ひねりを加える）ことによって曲面を構成している。このレイアウトは、「鵜飼い大橋」を利用するドライバーや歩行者の移動する視点に合わせてケーブルの造形が変化し、広がりを感じるよう演出した。

⑷ 壁高欄と照明

伝統行事・鵜飼は、漆黒の闇と篝火が主役の色彩豊かな野外劇といった美的価値も魅力の一つとなっており、その景観を保全するため、車道両脇の壁高欄に灯具を埋めた高欄照明とすることで橋梁外に光を漏らさない構造とした。

⑸ 主塔の照明

山側に傾斜した主塔を、橋梁意匠上の焦点としてみせるために、主塔の高さを生かして下方から頂部を強調したカラー投光照明とした。

鵜飼開催期間中と期間外で照明の色を替えることにより季節感を演出した。

受賞賛助会員　㈱市川工務店、川崎重工業㈱岐阜営業所、川田工業㈱岐阜営業所、駒井鉄工㈱名古屋営業所、新日本製鐵㈱岐阜営業所、㈱横河ブリッジ名古屋営業所